

Q.

スウェーデンハウスの、
家の「本分」は、
何ですか？

健康を支える家

家の「本分」

これまで5回に渡ってスウェーデンハウスのテクノロジーを紹介してきました。それらのテクノロジーの根底には、「ずっと快適な家に暮らして欲しい」という理念があります。

家が「本分」を果たすには、第一に「堅牢な躯体」が必要です。自然環境や災害に耐える強さを備え、同時にお子さんやお孫さんの代まで住み継ぐことのできる、耐久性のある家であることが大前提になります。

次に「ずっと快適」であることが、重要になります。冬に家の中の温度差が引き起こすヒートショックや、夏場の熱中症など、建物の断熱・気密性能によって防ぐことのできる健康被害から、住む人を守ることが必要です。

{その疑問に、お答えします。}
SWEDENHOUSE TECHNOLOGY

6

家の中でも「冬は寒いもの。夏は暑いのが当たり前」と諦めていませんか？しかし驚くことに、日本では年間に推計値約1万7000人の方々が浴室で亡くなっているとの調査研究が発表され、「寒冷になる季節に対応した住宅内の温熱環境を工夫することによって、入浴中の急死・突然死を予防できる可能性」が強く示唆されているのです。この数値は年間の交通事故死亡の数^{※2}6741人を大きく上回ります。また、国立環境研究所の調査では熱中症の4割が住宅内で発生している^{※1}とされ、冬の家の中の急激な温度変化や、夏の高湿多湿な室内が、住む人の命を脅かす恐れがあることは明らかです。

冷暖房機器でたくさんのエネルギーを使えば、建物の性能に関係なく、寒さ暑さを我慢せずに暮らすことができるのかもしれません。しかし地球環境への負荷や、ランニングコストを考えれば、快適を得るためにエネルギーを大量消費することは、避けたいものです。

スウェーデンハウスは、断熱材で隙間なくすっぽりと覆った高断熱・高気密の家なので、家族が集まるリビングと、お風呂やトイレにほとんど温度差がなく、家中を快適な温度で保つことができま

※1 出典：地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

※2 2011年の日本全国の交通事故死者数。（厚生労働省 人口動態調査による）

A.

暮らしと健康を守り、
豊かさを叶える
ことです。

です。ですから、血圧の急上昇や急降下によって起こるヒートショックを心配せずに安心して暮らせるのです。

また外気温に影響されにくく、快適な室温をキープするため、環境への負荷やランニングコストを最小限に抑えることができます。

加えて、多くのオーナー様から、結露の心配がなく、カビやダニが原因のアレルギー症状が緩和されたという声が届くなど、家の性能が住む人の健康を支えているのです。

変わらぬ性能

快適環境を得られる家であっても、その性能が新築時をピークに徐々に低下していくのでは困ります。スウェーデンハウスは性能を保つための定期的なメンテナンスシステムを備えて、新築時と変わらぬ「心地よさ」を持続できる家をご提供しています。

「堅牢な躯体」と「ずっと快適」を実現することで暮らす人を守る。至極当然のことではありますが、スウェーデンハウスの様々なテクノロジーは、そうした家の「本分」を実現するために結集し、豊かな暮らしを叶えています。